

# 駒澤書翰



第15号

発行日：

2024年4月21日

発行所：

株式会社エヌワイケー

〒154-0012

世田谷区駒沢5-7-6

電話：

03-3704-8391

FAX：

03-3703-7121

発行人：

横山和俊

## スタッフ紹介 - 堀内貴紀-

早春の候、皆様におかれましては益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。日頃は弊社取扱い各紙をご愛読いただき誠にありがとうございますとございませう。ご好評の「スタッフ紹介」。今号は、弊社社員「堀内貴紀」(ほりうちたかのり)を紹介いたします。

皆様、お世話になります、社員の堀内貴紀です。私は青森県青森市出身、1977年生まれ、射手座のA型です。高校卒業後は地元青森のカソリンスタンドに勤務していました。イラストに興味があり働いて貯めたお金をもとにイラストの勉強をするため20代半ばで上京します。その時、日経新聞の新聞奨学生制度を利用して専門学校に通ったのが私の新聞配達の始まりです。もともと大田区の販売店で勤務していましたが横山所長の移動に伴い私も駒沢店に移ってきました。イラストを描くことは今も変わらず好きです。描いているときが一番落ち着きます。良い作品

が描けるとネットにあげて評価を仰ぎます。過去には小説の挿絵に使用できないか、との問い合わせを受けたこともあります。配達業務も大好きです。大きな体で元氣よく配達しています。どうぞよろしくお願いします。



## 所長のひとし言 - 核心-

お世話になります、所長の横山です。「所長のひとし言」では、私が日々新聞を読む中で「この記事、多くの人に読んでもらいたい」と思った記事を紹介しています。新聞は一覧性に優れた情報媒体です。広く世の中を知るには最適なツールです。インターネットやSNSの普及により情報の入手手段やスピードは格段に向上しました。しかし、同時に閲覧情報の偏りやフェイクニュースなど、負の面もあらわになっていきます。そんな時代だからこそ有料である新聞情報が皆様にとって価値のあるものとなれば幸いです。

さて、そんな新聞ですが、記事以外にもコラムや連載物もあります。最近では著名記事も多くりましたが、コラムにおいては、記者以外に文化人や学者、芸能人やスポーツ選手など本人だからこそ書けるコラムも多くあります。お客様との会話でも「このコラムは必ず読むよ」とか「この人の連載は…」などのお声をよく聞きます。新聞のコラムは時事問題に絡めたり、季節がタイムリーだったり旬の話題が多いのが特徴です。ゆえに私も好きなコラムや連載がいくつもあります。例えば1面の「春秋」(日経新聞)「や」余祿(毎日新聞)「。両社ともコラムの雰囲気は違えど言葉や文章の勉強にもなり毎日欠かさず事無く読んでいます。その中で今回は私が「この人」のは必ず読む、というコラムを紹介いたします。

日経新聞毎週月曜日オピニオン面に掲載される「核心」。論説主幹や論説委員長ら日経新聞の中核を担う執筆陣が独自の視点からニュースを分かりやすく読み解き、今後の示唆を与えるコラムです。中でも論説フェローの芹川洋一氏のコラムは必ずスクラップしています。主に政治に関する考察になりますが、長年の取材で培ってきた知識と洞察は毎回勉強になります。コラムの趣旨上、芹川氏も今後の見通しについて語る機会が多いですが、今回は自身の希望を前面に出しています。以下、3月25日付日経新聞「コラム核心から」野

党が大連合に動く時だ」を紹介します。岸川氏は、派閥の政治資金パーティー問題をめぐり、自民党政治の方向舵が失われ、日本政治がうまく回っていないといいます。では、現状をどうみて、どう局面を転換すべきなのか。自身で3問設問し回答していきます。

**Q1 自民党の現状を問う。**政治資金問題で党内4分の1の勢力を誇った安倍派が瓦解。首相が打ち出した派閥解散で三頭政治といわれた麻生副総裁、茂木幹事長との間に溝ができる。これにより岸田政権の権力構造が変わり、党内はまとまりを欠き「タタタタ」が続いている。この間、自民党支持率は下落。2月の本社世論調査ではついに25%と政権交代前の09年7月の麻生政権当時を下回る事態となった。だが党内に緊迫感はない。自民党を離れた層は支持政党なしにたまり、野党には流れていない。かりに今、衆院選となり敗北しても過半数割れをおこすことはないかとタカをくくっている。「緊張感なき裏金政局」である。

**Q2 野党の現状を示せ。**野党各党ともチャンス到来と意気込んでいるものの、現状では自民党にとって代わるだけの力はない。「自民党を超える第1党をめざす」と2月の立憲民主党大会で泉健太代表は言い切った。しかし、政党支持率は2月が9%と相変わらず1ヶ月に低迷したまま。立憲民主党としてのぎを削る日本維新の会は次期衆院選で野党第1党を目標にする。ただ昨年春の統一地方選の勢いを維持しているかは疑問だ。両党が小選挙区でぶつかり合えば、自民党が漁夫の利を得るのは火を見るより明らかだ。野党は「勝算なき競争状態」だ。

**Q3 今後の見解を求む。**自民党に危機感を抱かせ、政治に緊張感を持たせるには、次の衆院選で敗北、下野するかもしれないと思わせる状況をつくるしかない。これからはじまる政治資金規正法改正をめぐる与野党協議を中身あるものにするためにもそれは必要だ。バラバラの野党が「政治とカネ」の政治改革連合でまとまり、衆院選の候補者調整も大車輪を進める。よしあしは別にして、政権を交代させようとするればそんな荒技も時には必要になる。

以前、野田佳彦元首相から聞いたミツバチとスズメバチの話を思い出した。ミツバチは天敵である大きなスズメバチに、一対一なら食べられてしまう。身を守るために、二ホンミツバチは一斉に1匹のスズメバチに襲い掛かる。何重にもスズメバチを囲い胸の筋肉をふるわせ熱を起し、スズメバチを蒸し殺す。「熱殺蜂球」と言う。その二ホンミツバチの蜂球の内部は47〜48度になる。スズメバチの致死温度は45度。対して二ホンミツバチは50度。最初にかみ殺される十数匹以外は生き残る。

今は野党が二ホンミツバチになりひとつの塊となって、自公スズメバチを追い込む熱殺蜂球に出るチャンスのはずだ。野党が大同団結に動けば政治は一気に引き締め、動く。以上3問への答案の採点は読者⇨有権者の皆様にお願ひして筆をおく。

**衆院3選挙区で補欠選挙が今月16日告示され20日投票されます。**自民党派閥の政治資金パーティー裏金事件が発覚してから初の国政選挙です。元は3選挙区とも自民党の議席でした。しかし、逆風下の自民党は2選挙区で候補者擁立を見送り1選挙区での「1勝」に注力しています。その結果は今後の岸田首相の政権運営や衆院解散戦略に大きな影響を与え可能性があります。私たちの選挙区での補欠選挙ではないので、直接意思表示はできません。しかし、私は次回の衆院選挙は、日本が未来に希望をもって生きていく国に変わる最後のチャンスだと思っています。私には3人の子ともがいます。その子ども達が私の歳になるまで30年以上あります。はだして30年後の日本は、そして50年後、100年後の日本はどうなっているでしょうか。人口も減り、年齢構成も変わることは間違いありません。合わせて世界情勢も全く読めません。柔軟に対応できる社会にしなければなりません。政治が正しく旗を振らないと柔軟に対応できる社会は作れません。過去の成功体験のすがりつき、未来を見ない政治では正しく旗を振れません。政治を正すのはこの国の主権者たる私たちです。岸沢氏の答案へ正しく採点せねばなりません。